

Daily Market Report

ナフサ C&F JAPAN 評価値(ドル/MT)

C&F JAPAN 評価値

5月後半着	1,018.75	(6.50)
6月前半着	1,015.75	(6.50)
6月後半着	1,013.75	(6.50)
7月前半着	1,012.50	(6.75)
7月後半着	1,011.50	(7.00)

OPEN SPEC NAPHTHA スポット取引プレミアム評価値

(千葉到着ベース)	COUNT30日前	COUNT45日前
5月前半着	+7.00	+4.50
5月後半着	+5.63	+4.00
6月前半着	+3.75	+2.63
6月後半着	+2.69	+1.75

算出時の原油価格(ドル/bbl)

MONTH	MAY
WTI	108.42
BRENT	119.12

本日午前10時時点での理論上の計算値、()内は前営業日の評価値との比較

[マーケットコメント]

週末1日のナフサ C&F JAPAN は997.5ドルと小幅続伸、クラックスプレッドは反落。アジア、欧州共にファンダメンタルズはタイトな状況にあり堅調に推移している。アジアの逼迫感はやや弱まったものの、エンドユーザーから旺盛なナフサ需要が見られ、引き続き供給が不足している状態にある。一方で、ナフサ価格が1000ドル近辺まで上昇したことから高値警戒感も強まっている。震災後、大方のクラッカーは再稼動することが決まり、徐々に需要も回復し始めているが、震災による影響から未だ末端の製品工場の本格的な稼動までには至っていない。自動車をはじめ、あらゆる工場が停止もしくは稼動を落としての生産が続く状況下、石化製品に対する需要は落ち込んでいる状態にある可能性が高い。電力供給も不安定なことから、日本のナフサ需要に対する不安感は根強いものがある。プラツタイムでは一部積極的な売り手が押し下げ、方や買い手が動意付かなかったことからクラックスプレッドは下落した。今週のアジア市場は、これらのタイトな状況と今後の需要に対する不透明感が交錯し、一進一退の動きとなることが見込まれる。

ナフサ MOF / 国産ナフサ価格予想値および評価値

	ナフサMOF価格				国産ナフサ価格	
	ドル/MT	ドル/円	円/KL	速・確報値/(前日比)	予想値/評価値	速報値/(前日比)
10-Oct	700.07	83.42	40,587	40,712		
10-Nov	747.36	81.39	42,273	42,222		
10-Dec	796.85	83.61	46,305	46,634		
10-4Q			43,079	43,101	45,100	45,100
11-Jan	857.45	82.91	49,410	49,202		
11-Feb	882.61	82.33	50,505	50,204		
11-Mar	909.37	82.49	52,133	(±0)		
11-1Q			50,513		52,500	(±0)
11-Apr	980.90	82.45	56,207	(31)		
11-May	1,017.05	84.15	59,482	(730)		
11-Jun	1,024.28	84.17	59,916	(874)		
11-2Q			58,535		60,500	(500)
11-Jul	1,022.69	84.19	59,837	(903)		
11-Aug	1,021.19	84.21	59,764	(932)		
11-Sep	1,019.69	84.23	59,696	(957)		
11-3Q			59,766		61,800	(1,000)
11-Oct	1,018.19	84.27	59,630	(974)		
11-Nov	1,016.69	84.30	59,567	(985)		
11-Dec	1,015.19	84.34	59,507	(992)		
11-4Q			59,568		61,600	(1,000)
12-Jan	1,013.61	84.39	59,448	(1,005)		
12-Feb	1,011.67	84.44	59,371	(1,012)		
12-Mar	1,009.23	84.50	59,267	(1,014)		
12-1Q			59,362		61,400	(1,000)

予想値は太字での表記、MOF(国産)価格の評価値は予想値ではなく本日午前10時時点での理論上の計算値

(前日比)は前営業日の予想値および評価値との比較、換算比重は0.695、為替レートは実勢為替相場に基づいた通関レートおよび為替先物マーケットから算出

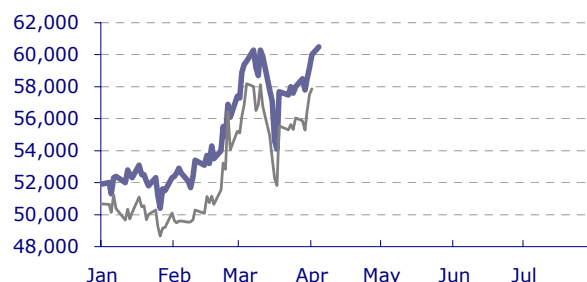
[ナフサ MOF/国産ナフサ価格予想値および評価値コメント、マーケットコメント]

本日午前10時時点の11年1Q国産ナフサ予想値は5万2500円と予想値に変更はない。本日のナフサ C&F JAPAN 評価値は上昇が想定されるうえ、為替通関レートも大きく円安へと振れたことから、MOF 評価値は続伸することが見込まれる。11年2Q国産ナフサは前営業日比500円高の6万0500円の評価。

11年1Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



11年2Q国産ナフサ予想値および評価値(円/KL)



太線は弊社予想値および評価値の推移、細線はナフサ C&F JAPAN に為替および比重(0.695)を乗じた数値の推移

本レポートに掲載されている情報は、時間の経過または様々な後発事象によって予告なしに変更される可能性がありますので、あらかじめご了承ください。なお、掲載された情報は信頼できると判断した情報源に基づき作成したものです。株式会社アメリクス・エナジー・コム(以下、弊社)はこの完全性や正確性に関する責任を負いません。また、本レポートに示した見解および予測は必ずしも適切かつ妥当なものとは限らず、本レポート作成日における弊社の判断です。本レポートに掲載されている内容の著作権は、原則として弊社に帰属いたします。

Daily Market Report

原油・石油製品相場(前営業日)

Crude Oil(ドル/bbl)

		close	chg
NYMEX / WTI	MAY	107.94	(1.22)
	JUN	108.50	(1.26)
ICE / BRENT	MAY	118.70	(1.34)
	JUN	118.41	(1.21)

Oil Products(セント/gal) (ドル/MT)

		close	chg
NYMEX / RBOB	MAY	315.13	(4.36)
NYMEX / Heating Oil	MAY	313.45	(2.20)
ICE / Gas OIL	APR	1,000.50	(7.50)

[マーケットコメント]

週末1日の原油相場は、ロンドン市場、NY市場ともに続伸。中東や北アフリカの政情不安、米雇用統計の改善を背景に買いが先行した。WTI期近5月限は、一時108.47ドルまで上昇し、期近ベースとしては2008年9月25日以来の高値を付けた。

リビア情勢の混乱から先行きの供給不透明感を背景に買いが優勢となるなか、この日発表された3月の米雇用統計が強気の内容となったことで上値追いの展開となった。非農業部門雇用者数は21万6000人増(市場予想18万5000人増)と6ヶ月連続でプラスとなり、失業率も8.8%(同8.9%)と4ヶ月連続で改善し、ともに市場予想よりも強い内容が示された。雇用改善により先行きの米国景気に対する楽観の見方が広がり、景気回復に伴う石油需要の伸びへの期待から買いが集まった。年初来高値である106.95ドルを上抜いたことで、踏み(売り方の買戻し)が一時的に集まったことも上げ足を速めた可能性が高い。ブレント原油も続伸し、期近5月限は一時119.14ドルまで上昇し、2月24日の高値119.74ドルに迫る場面も見られた。石油製品相場も続伸。RBOB期近5月限は2008年8月1日以来、ヒートンオイル期近5月限は2008年9月8日以来の高値を付けた。

CFTC発表によると、29日時点のファンドのポジションは、WTIは25万4894枚の買い越しと、前週から買い越し幅を1166枚拡大させた。売り買いともに新規建玉を増やしている。石油製品は、RBOBが6万4794枚の買い越しと、前週から買い越し幅を1170枚拡大。新規にポジションを構築する動きで買いが先行した。ヒートンオイルは、3万0451枚の買い越しと、前週から買い越し幅を1726枚拡大。こちらは玉整理中心でショートカバーが先行した格好。なお、天然ガスは20万1013枚の売り越しと前週から売り越し幅を3万6614枚縮小。

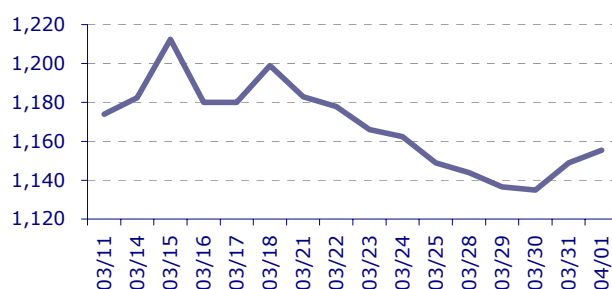
トピックス

「前週のベンゼンマーケットレビュー」

前週のアジアのベンゼンマーケットは、FOB KOREA1100ドル台前半で下げ渋る動き。他の芳香族は、トルエンは週初に下押されるも、その後は1060ドルを挟んでの揉み合い。一方のパラキシレン(PX)はジリ安基調を継続し1700ドルを割り込んでいる。震災により供給減少が懸念され、依然として稼働を停止しているプラントはあるものの、JX川崎など一部稼働を再開するプラントも見られており、一部の供給懸念は後退している。また、川下の高純度テレフタル酸(PTA)およびその誘導品であるポリエステル需要が減少していることで、需給タイト感が和らぎ売り先行の展開となっている。

アジアのベンゼン市況は、軟調地合いを継続し下値を切り下げたが、週後半には小幅ながら切り返している。需給ファンダメンタルズは弱気な材料が多く見られているが、原油相場が急速に切り返したことで下げ渋った感がある。川下の主要誘導品であるスチレンモノマー(SM)からの引き合いが減少し、アジアおよび米国のベンゼン需給は供給過剰気味。アジアでは、中国の建築基準が強化され、建築材料として使用されるEPSの基準がグレードアップし、従来の汎用EPS需要が大きく減少している。ポリスチレンのほかにも、マージン悪化からABS需要も減少気味であり、中国を中心にSM需要が落ち込んでいる。また、米国ではライオンデルパセルのテキサス州のSMプラントや、スノコのオハイオ州のSMプラントなどが稼働を中断しており、SM需要の減少により原料ベンゼンの供給に過剰感がある。需給面の弱さから上値重く推移し、1150ドルを割り込んだが、週後半に入り川上の原油相場が急速に切り返して年初来高値を更新したことで、その動きに連れベンゼン市況にも買いが入った。下げ渋りから小戻ししているものの、積極的に買い進むだけの材料に乏しく、原油高が一服するようだと再度下げに転じる公算が大きい。なお、対ナフサとのスプレッドは、150ドル水準まで縮小しており、相対的には短期で売られ過ぎ感がある点は否めない。

Benzene FOB KOREA(ドル/MT)



「2月のエチレン用輸入ナフサ価格、前月比840円高 = 経済産業省」

経済産業省製造産業局化学課は4日、2月のエチレン用輸入ナフサ通関実績を発表した。同統計によると、2月のエチレン用輸入ナフサ価格は1KLあたり5万0140円と前月から840円上昇した。5ヶ月連続の上昇。輸入数量は前月比14万8405KL減(6.7%減)の206万1384KL。

	輸入数量(KL)	輸入数量(トン)	輸入金額(ドル)	単価(ドル/トン)	為替レート(円/ドル)	単価(円/KL)
1月実績	2,209,789	1,533,498	1,313,929,809	856.8	82.9	49,300
2月実績	2,061,384	1,429,212	1,255,357,146	878.4	82.3	50,140

(出所: 経済産業省)

Daily Market Report

「PS 製品値上げへ = DIC」

DIC は 31 日、ポリスチレン製品について価格改定を実施することを明らかにした。対象となるのは GPPS および HIPS 製品で、価格改定幅はプラス 10 円/kg 以上、実施時期は 4 月 18 日納入分より。原油価格高騰を受けナフサ、ベンゼン価格は以前にも増して高騰しており、ポリスチレンの諸原料価格も引き続き上昇している。現在の原材料価格水準は、自助努力による吸収の限界を超えており、今後の安定供給および事業継続のためにも価格是正は避けられないと判断した。

「MEK 等の出荷を停止 = 丸善石油化学」

丸善石油化学は 31 日、震災により停止した装置のうち、装置の健全性の確認、その他諸準備が整ったことで、千葉の第 3 エチレン製造装置を再稼働することを明らかにした。稼働再開は 4 月 4 日を予定している。なお、ブタジエン製造装置の 1 系列および芳香族製造装置の一部についても、第 3 エチレン製造装置稼働後に順次稼働する予定。一方で同社は 1 日、メチルエチルケトン (MEK) 等の出荷を停止することを明らかにした。先般の地震により同社のアルコールケトン製造装置が被災しており、被災状況についての詳細な調査はこれからの予定だが、現時点の見込みとして復旧には最低でも 1 年間は必要であるという。それゆえ、やむを得ず復旧までの期間の当該製造装置の製品である MEK、セカンダリーブチルアルコール (SBA)、ジイソブチレン (DIB) の出荷を停止することを決定した。

「太陽電池用フッ素フィルム 3 倍増設、2012 年 4000 トン生産規模確保 = SKC」

韓国化学大手 SKC は 31 日、太陽電池用フッ素フィルムの生産能力を現在の 1200 トン/年から 2012 年 3Q までに 4000 トン/年増強することを明らかにした。この増強により、2012 年には世界市場の 30% シェア獲得を目標とする。耐候性と耐久性を必要とする太陽電池用フッ素フィルムは、脆い太陽電池セルを保護する役割がある。市場規模は年間ベースで 6000 トン、米化学大手のデュポン製品が独占しており、韓国では唯一 SKC がフッ素フィルムを生産する。同社は今後、供給不足が予想される同市場において投資を拡大する。

「アラバマに樹脂生産法人を設立 = 湖南石油化学」

韓国石油化学大手湖南石油化学は 1 日、米アラバマ州アーバン市に複合樹脂を生産する HPM アラバマコーポレーションを設立したことを明らかにした。同プラントは、南部地域のテクノパークに、今年 12 月の商業生産を目標に建設中であり、段階的に増設して、2013 年までに複合樹脂と LFT (LONG FIBER THERMOPLASTIC) の生産能力を 1 万 5000 トン/年に拡大する計画がある。機能性素材特許製品 LFT は、金属代替となる軽量化素材で、自動車ドアモジュールプレート、洗濯機アウタータブなど適合する。また、LFT 追加増設、EPP (Expanded Polypropylene)、接着性樹脂など機能性素材事業の拡大も予定されている。同社は米国で初めての樹脂生産事業を足掛かりにコスト競争力を駆使し、北米だけでなく中米、南米向けへの製品供給体制の確立を狙う。

「2 月の韓国ナフサおよびオレフィン輸出」

韓国の 2011 年 2 月のナフサおよびオレフィン輸出統計は以下の通り。

	数量 (mt)	価額 (US\$)	FOB KOREA (US\$/mt)	国別輸出量TOP3		
				国	数量 (mt)	FOB KOREA
ナフサ	318,672	277,904,362	872	日本	198,993	868
前月比	50,261	44,770,281	3	中国	119,679	879
前年同月比	79,041	106,843,236	158	—	—	—
エチレン	42,504	53,335,277	1,255	中国	39,465	1,253
前月比	▼11,893	▼11,826,272	57	台湾	2,901	1,213
前年同月比	15,177	17,635,909	▼52	フィリピン	128	2,811
プロピレン	39,951	53,414,074	1,337	中国	36,905	1,333
前月比	▼16,575	▼18,402,218	66	台湾	1,546	1,446
前年同月比	▼1,517	4,412,843	155	日本	1,499	1,330
ブタジエン	24,708	52,106,194	2,109	米国	10,105	2,192
前月比	5,433	12,925,299	76	台湾	6,047	2,151
前年同月比	6,206	18,879,092	313	中国	6,045	1,940

(出所:韓国貿易協会)